

血液製剤に関する報告事項について（目次）

○ 輸血用血液製剤で HIV 感染が疑われた事例について	3
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 16 年 3 月 22 日報告)について	4
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 16 年 11 月 26 日報告)について	5
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 1 月 12 日報告)について	7
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 2 月 4 日報告)について	9
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 17 年 6 月 23 日報告)について	11
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 4 月 7 日報告)について	12
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 6 月 5 日報告)について	13
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 19 年 2 月 20 日報告)について	14
○ 輸血用血液製剤で HBV(B 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 20 年 2 月 8 日報告)について	15
○ 輸血用血液製剤で HCV(C 型肝炎ウイルス)感染が疑われた事例(平成 18 年 2 月 15 日報告)について	16
※●は今回の新規症例	
○ 平成 20 年度感染症報告事例のまとめ (平成 20 年 10 月報告分以降)について	18

○ 輸血後 HEV 感染の予防対策(問診・NATの状況)	35
------------------------------	----

＜ 参 考 ＞

・ 血液製剤に関する報告事項について （平成 21 年 1 月 8 日付け血液対策課事務連絡）	41
・ 血液製剤に関する報告事項について(回答) （平成 21 年 1 月 14 日付け日本赤十字社提出資料）	43
・ (参考)安全対策業務の流れ	52

輸血用血液製剤で HIV 感染が疑われる事例について

1. 経緯等

平成15年9月5日、後天性免疫不全症候群発生届にて感染経路として輸血が考えられる HIV 感染者が報告されたとの情報を入手。同日、当該報告医が、同事例について副作用感染症報告を日本赤十字社に提出、これを受けて同社による調査が開始され、その結果が、平成15年10月30日に開催された第95回エイズ動向委員会（委員長：吉倉廣国立感染症研究所長）に報告された。

2. 事 例

50歳代の男性で平成15年の3月～7月に赤血球製剤(MAP16単位)の輸血を受けた後、実施した血液検査においてHIV感染を確認(WB検査陽性)。報告医は感染経路として輸血を疑っている。

3. 事実関係

1) 輸血された輸血用血液製剤について

- ・当該感染者には、8人の供血者から採血された赤血球製剤(MAP)が8本(保管検体の個別NATはいずれも陰性)投与された。

2) 他の血液製剤への影響について

- ・投与された赤血球製剤の原料血液からは、他に新鮮凍結血漿と血漿分画製剤用の原料血漿が製造されていた。
- ・原料血漿については流通を停止。
- ・新鮮凍結血漿については3本が製造されており、既に他の医療機関で3名の患者に投与されていた。(他に行方不明の製剤はない。)

3) 新鮮凍結血漿の投与を受けた3名について

- ・1名は既に原疾患により死亡
- ・残り2名については輸血後(約6ヵ月後)の抗体検査で陰性。

4. エイズ動向委員会での専門家からの意見

記者会見では、「HIVの感染が輸血用血液製剤によるか追求すれば、患者のプライバシーに関わりうるケースである。」との発言があった。

5. エイズ動向委員会後の事実経過

- 1) 健康状態の確認を行っていた2名の受血者は、いずれも感染していなかったことが確認された。
- 2) 供血者の次回献血での検査については、8名中6名が来訪し、感染していなかったことが確認された(平成21年1月14日現在、残る2名のその後来所なし)。

6. 今後の対応

当該感染者のプライバシーの最大限尊重を徹底しつつ、引き続き調査を継続するよう指導してまいりたい。

輸血用血液製剤で HBV（B 型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （3月22日報告）について

1 経緯

平成16年3月22日及び30日、日本赤十字社から輸血（人血小板濃厚液及び人赤血球濃厚液）による HBV 感染の疑い事例の報告があった。

2 事例

70歳代の女性。原疾患は急性骨髄性白血病。平成15年10月5日～平成16年1月22日の間に、輸血を計18回（人血小板濃厚液10単位を11袋分並びに人赤血球濃厚液1単位を3袋分及び2単位を4袋分）受ける。

輸血前の血液検査（平成15年10月3日）では HBs 抗原及び抗体検査（B型肝炎ウイルスの検査）はいずれも陰性であったが、輸血後の平成16年3月19日に実施した HBs 抗原検査は陽性、肝機能検査（GOT、GPT 及び LDH）は高値を示す。

患者は4月26日に死亡したことを確認済み。死因は呼吸不全及び腎不全。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

- 当該患者には、37人の供血者から採血された血小板製剤及び赤血球製剤を輸血。
- 当該製剤に関わる血漿のうち、4人分由来の5本が新鮮凍結血漿（FFP）として医療機関へ供給された（残りは原料血漿）。

（2）37人の供血者について

37人の供血者のうち、32人の献血者がその後献血しており、検査は陰性であった。（平成21年1月14日現在、残る5人のその後の来所なし）。

（3）供血者の個別 NAT の試験結果

供血者37人の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、全て陰性であった。

（4）患者の保管検体の個別 NAT 及び HBs 抗原の試験結果

平成16年3月19日（輸血後）の医療機関に保管されていた患者検体は個別 NAT 及び HBs 抗原検査はいずれも陽性（輸血前は保管されていなかった）。

（5）輸血と HBV 感染との関連

現在のところ、輸血と HBV 感染（当該事例の死亡原因を含む）の因果関係については不明。

4 今後の対応

（1）当該事例への対応

- 医療機関へ供給した5本の新鮮凍結血漿に関して情報提供した医療機関における受血者（患者）5名の健康状態を確認した結果、輸血後陰性が2名、不明が3名であった。
- 37人の供血者のうち、その後献血に来ていない5人のフォローを行う。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤で HBV（B 型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （11月26日報告）について

1．経緯

平成16年11月26日、日本赤十字社から輸血（新鮮凍結血漿）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2．事例

70歳代の男性。原疾患は消化器腫瘍（転移性肝癌を含む。）。平成16年3月12日から15日まで4日間に亘り、プロトロンビン時間延長のため、輸血を（新鮮凍結血漿合計36単位23本）受ける。

輸血前の血液検査（2月28日）では、HBs抗原検査陰性であったが、平成16年10月4日に肝機能検査値異常がみとめられ、黄疸を呈したため、10月8日に検査したところ、HBs抗原陽性、HBs抗体陰性が確認され、急性B型肝炎と診断された。11月17日に右大量胸水を呈した後、呼吸状態悪化により死亡した。また、平成15年5月の手術の際にも新鮮凍結血漿2単位22本、赤血球MA P 2単位3本の輸血を受けている。

3．状況

(1) 輸血された血液製剤について

当該患者には平成16年3月の輸血時に23人の供血者から採血された新鮮凍結血漿を輸血。また、平成15年5月に25人の供血者から採血された新鮮凍結血漿及び赤血球MA Pを輸血。

平成16年3月輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は2本が確保、10本は使用済み、新鮮凍結血漿10本及び赤血球MA P 23本は全て医療機関に提供済み。

平成15年5月輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿21本は使用済み、新鮮凍結血漿6本及び赤血球MA P 22本は全て医療機関に提供済み。

(2) 48人の供血者について

平成16年3月の輸血時の供血者23人のうち、19人が再献血し、再献血時の検査結果は18人がHBV関連検査陰性、1人はHBc抗体はEIA法陽性、HI法陰性、HBs抗体（EIA法）陽性（NAT及びHBs抗原陰性）であった。なお、この1人の献血時のHBc抗体はEIA法で陽性、HBs抗体も陽性であった（平成21年1月14日現在、残る4人のその後の来所なし）。平成15年5月の輸血時の供血者25人のうち、21人が再献血し、再献血時の検査結果はHBV関連検査陰性であった（平成21年1月14日現在、残る4人のその後の来所なし）。

(3) 供血者個別 NAT の試験結果

平成16年3月の輸血時の供血者23人の献血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。

平成15年3月の輸血時の供血者25人の献血時の保管検体について、個別NATを実施したところ、すべて陰性であった。

4．今後の対応

(1) 供血者48人のうち、8人の再献血・検査に係るフォローを行う。

(2) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(3) その他

受血者の輸血後検体(10月12日)を確保し、再検査したところ、HBs 抗原(+)、HBs 抗体(-)、HBc 抗体(+)、HBV-DNA(+)であった。

受血者の肝臓については、平成15年に施術され、平成16年10月の腹部CTでは再発が認められておらず、肝臓と肝障害との因果関係はないものと考えられる。

輸血用血液製剤で HBV (B 型肝炎ウイルス) 感染が疑われた事例 (1 月 12 日報告) について

1 経緯

平成 17 年 1 月 12 日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液、血小板濃厚液）による HBV 感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60 歳代の男性。原疾患は血液疾患。平成 16 年 1 月 8 日から 5 月 25 日まで 12 回にわたり、輸血（赤血球濃厚液合計 26 単位、血小板濃厚液合計 30 単位）を受ける。

輸血前の血液検査（1 月 8 日）では、HBs 抗原検査陰性であったが、平成 16 年 11 月 18 日に食欲不振のため、検査したところ、HBs 抗原陽性が確認され、同 22 日の採血の検体で、HBs 抗原（+）、HBs 抗体（-）、HBc 抗体（+）、HBV - DNA の NAT の（+）も確認された。平成 17 年 1 月 8 日劇症肝炎を呈した後、肝不全により死亡した。

3 状況

(1) 輸血された血液製剤について

当該患者には 16 人の供血者から採血された赤血球濃厚液及び血小板濃厚液を輸血。

輸血の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は 3 本が確保、12 本は使用済み、新鮮凍結血漿 12 本は全て医療機関に提供済み。

(2) 16 人の供血者について

輸血時の供血者 16 人のうち、12 人が再献血し、再献血時の検査結果は HBV 関連検査（-）であった。（平成 21 年 1 月 14 日現在、残る 4 人のその後の来所なし）

供血時保管検体の 2 人の陽性血から、原料血漿 2 本、新鮮凍結血漿が 2 本製造され、原料血漿は使用済み、新鮮凍結血漿も使用済みであった。当該新鮮凍結血漿の受血者 2 名のうち、1 人は輸血後 11 日目で死亡、もう 1 人は HBs 抗原検査（-）であった。

(3) 供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 16 人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、2 人が NAT（+）であった。

当該 2 人は、共に、複数回再献血を行っているが、再献血時に HBV 関連検査（-）であり、HBc 抗体及び HBc 抗体-IgM は（-）、個別 NAT も共に（-）であった。

当該 2 名の供血時の保管検体のウイルス解析の結果、共に、ゲノタイプ C サブタイプ adr と推定、また、497 番目と 498 番目の間に 12 塩基が挿入した極めて特殊な変異株と挿入のない野生株が存在していた。これらは、受血者の血液も同様に挿入のある変異株と挿入のない野生株を有しており、三者のウイルスのシーケンスは完全に一致した。

4 今後の対応

(1) 血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(2) 輸血時の供血者 16 人のうち、再献血に訪れていない 4 人について引き続き、調査

する。

(3) その他

供血時保管検体でN A T (+) となった2名は、その後の再献血の検査がすべて (-) であり、HB c 抗体も (-) であり、感染歴があった可能性は低い。

また、発見されたウイルスのシーケンスは稀なものであり、これらが偶然に保管検体2本一致することは考えにくい。

当該供血者の血液から同時に製造された新鮮凍結血漿の受血者で感染は発生していない。

以上のことから、N A T 時に受血者血液が供血者サンプルに混入する等の測定上の誤差が発生した可能性も考えられる。

輸血用血液製剤で HBV（B 型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （2 月 4 日報告）について

1 経緯

平成 17 年 2 月 4 日、日本赤十字社から輸血（人赤血球濃厚液）による HBV 感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60 歳代の男性。原疾患は悪性腫瘍。平成 16 年 9 月 8 日から 11 月 24 日まで、貧血のため、輸血を計 9 回（人赤血球濃厚液合計 14 単位）を受ける。

輸血前の血液検査（平成 16 年 8 月 3 日及び 9 月 8 日）では、HBs 抗原検査陰性であったが（9 月 8 日は HBs 抗体及び HBc 抗体検査も陰性）、平成 16 年 11 月 24 日の輸血時に HBs 抗原検査陽性が確認された（HBs 抗体及び HBc 抗体検査は陰性）。

平成 17 年 1 月 26 日の輸血施行時に、HBs 抗原検査陽性に加え、HBc 抗体検査が陽性となり（HBs 抗体検査は陰性）、1 月 31 日には黄疸が出現するとともに、肝機能検査で高値を示し、2 月 2 日に劇症肝炎により死亡した。

なお、当該患者の輸血前血液（平成 16 年 9 月 8 日）の保管検体の HBV-NAT は陰性で、輸血後血液（平成 16 年 10 月 21 日）は HBV-NAT は陽性であった。輸血後血液から検出された HBV は、ジェノタイプ B、サブタイプ adw、CP/Pre C 領域は e 抗原が産生できない変異株であった。HBV-DNA 量は 2.9×10^{10} Copies / mL であった。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

当該患者には 9 人の供血者から採血された赤血球濃厚液を輸血。

9 人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿 7 本及び新鮮凍結血漿 2 本を確保済み。残りの新鮮凍結血漿 2 本は医療機関へ供給済みであるが、医療機関への情報提供は実施済み。

（2）9 人の供血者について

供血者 9 人のうち、当該患者の平成 16 年 10 月 21 日採血の輸血後血液が HBV-NAT 陽性であったことから、10 月 21 日輸血以前（9 月 8 日～9 月 10 日）の輸血に係る 4 人の供血者に対して供血者に呼び出しの協力を依頼し、3 人は再献血又は再採血済み。

10 月 21 日輸血以降の供血者について、2 人がその後再採血検査済み。

及び の計 5 名については、HBV 個別 NAT を含め HBV 関連検査は陰性だった。ただし、 の 3 名のうち、1 名は HBc 抗体が EIA 法のみ陽性、HI 法は陰性だった。（平成 21 年 1 月 14 日現在、残る 1 名のその後の来所なし。）

（3）供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 9 人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

（1）9 月 8 日～9 月 10 日輸血の 4 人の供血者のうち、残る供血者 1 人の再献血・検査に係るフォローを行う（再採血の依頼中）。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

(3) その他

悪性腫瘍の治療にプラチナ系抗癌剤等（ 8 月 1 8 日 ）及びテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム（ 1 1 月 1 0 日 ）を使用しており、薬剤性の劇症肝炎の疑いも完全には否定できない。

輸血用血液製剤で HBV（B 型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （6 月 23 日報告）について

1 経緯

平成 17 年 6 月 23 日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液及び新鮮凍結血漿）による HBV 感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

50 歳代の男性。原疾患は消化管腫瘍。平成 17 年 2 月 3 日に手術施行のため、赤血球濃厚液合計 8 単位、新鮮凍結血漿合計 30 単位を受ける。

輸血前の血液検査（平成 16 年 12 月）では HBs 抗原検査陰性、輸血後の平成 17 年 4 月 6 日でも HBs 抗原検査陰性であったが、退院時の平成 17 年 4 月 21 日に HBs 抗原検査陽性が確認された。

その後、平成 17 年 6 月 13 日に発熱、全身倦怠感等出現し、肝機能値が高値を示し、6 月 16 日再入院、6 月 20 日には、HBs 抗体、HBc 抗体、HBe 抗原、HBe 抗体のいずれも陽性が確認された。また、同日の HBc の IgM 抗体も陽性であり、劇症肝炎と診断される。

患者は、7 月 3 日に B 型劇症肝炎にて死亡した。

患者の検体の HBV の解析結果は、ジェノタイプ C、サブタイプ a d r であり、CP/Pre Core 領域の塩基配列の解析から PreC 部位には変異はなく、CP（Core Promoter）部位に変異がある CP 変異、PreC 野生株であった。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

当該患者には 20 人の供血者から採血された赤血球濃厚液等を輸血。

20 人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は 17 本のうち 10 本が確保、新鮮凍結血漿 6 本のうち 3 本は確保済み。15 本の赤血球濃厚液はすべて医療機関へ供給済み。医療機関への情報提供は実施済み。

（2）20 人の供血者について

供血者 20 人のうち、16 人が再採血・献血に来場（HBV 関連検査は陰性）。（平成 21 年 1 月 14 日現在、残る 4 名の来訪なし。）

（3）供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 20 人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

（1）供血者 5 人の再献血・検査に係るフォローを行う（再採血の依頼中）。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われた 事例（4月7日報告）について

1. 経緯

平成 18 年 4 月 7 日、日本赤十字社から輸血（濃厚血小板、赤血球濃厚液）による HBV 感染疑いの症例の報告があったとの報告が、日本赤十字社からあった。

2. 事例

患者は、40 代の男性で、原疾患は血液腫瘍。平成 16 年 7 月から平成 17 年 2 月に（濃厚血小板計 30 単位、赤血球濃厚液計 48 単位）、平成 17 年 3 月から 5 月に輸血（濃厚血小板計 130 単位、赤血球濃厚液計 18 単位）を受ける。

最初の輸血から 8 ヶ月後の平成 17 年 2 月 22 日には HBs 抗原、HBs 抗体、HBc 抗体全て陰性だったが、平成 18 年 3 月に肝不全となり、4 月 3 日に HBs 抗原、HBc 抗体についても陽転が確認された。輸血後の平成 17 年 5 月 23 日の保管検体において、HBV - NAT は陰性であったが、6 月 8 日の保管検体において、HBV - NAT は陽性であった。なお、HCV 抗体は輸血前から陽性であった。

その後主治医は、亜急性劇症肝炎と診断。（4 月 7 日 ALT67IU/mL , T-Bil3.57mg/dL , PT-INR2.30）患者は 5 月 19 日に肝不全により死亡。

3. 感染についての状況

(1) 輸血された血液製剤について

当該患者に投与された血液製剤の供血者数は 31 人（H16 年 7 月～H17 年 2 月）及び 22 人（H17 年 3 月～5 月）

被疑製剤の対象を H16 年 7 月まで拡大して調査

当該供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿 51 本のうち 44 本使用済みで 7 本確保済み。新鮮凍結血漿 14 本はすべて医療機関へ供給済み。

(2) 供血者個別 NAT

供血者個別 NAT は 53 人分全て陰性。

(3) 供血者に関する情報

供血者 31 人のうち、22 人が献血又は事後採血に再来し、21 人は HBV 関連検査陰性。1 名は HBs 抗体のみ陽性（平成 21 年 1 月 14 日現在、残る 9 名の来訪なし）。

供血者 22 人のうち、22 人すべてが献血又は事後採血に再来し、20 人は HBV 関連検査陰性。2 名は HBc 抗体及び HBs 抗体陽性。

(4) その他

平成 17 年 4 月 8 日、骨髓バンクからの同種骨髓移植を施行。ドナーは HBsAg(-)、HBsAb(-)、HBcAb(-)であった。

4. 今後の対応

(1) 供血者 9 人の再献血・検査に係るフォローを行う

(2) 「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤で HBV（B 型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （6 月 5 日報告）について

1 経緯

平成 18 年 6 月 5 日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液及び新鮮凍結血漿）による HBV 感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

80 歳代の男性。原疾患は消化器疾患。平成 17 年 10 月 22 日から 11 月 29 日までの間に赤血球濃厚液合計 18 単位、新鮮凍結血漿合計 36 単位を受ける。

輸血前の血液検査（平成 17 年 8 月 31 日）では HBs 抗原検査陰性、AST 16 及び ALT 12 であった。輸血後の平成 18 年 5 月 2 日に、AST、ALT の上昇がみられ、同月 19 日に HBs 抗原検査陽性であり、AST 683、ALT 693 であった。同患者については、上記の他、次の検体が医療機関に保管されており、それらを検査した結果は次のとおりであった。

輸血前 H17.10.22 HBV-DNA 陰性

輸血後 H17.11.13 HBs 抗原陰性、HBs 抗体陰性、HBc 抗体陰性

輸血後 H17.11.24 HBs 抗原陰性、HBs 抗体 EIA 法陽性 / PHA 法陰性、HBc 抗体陰性

輸血後 H17.11.27 HBV-DNA 陰性

輸血後 H18.06.02 HBs 抗原陽性、HBs 抗体陰性、HBc 抗体陽性、HBV-DNA 陽性

その後、平成 18 年 6 月 12 日に死亡。急性肝炎から劇症肝炎に至り、肝不全による死亡と考えるとの担当医の見解である。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

当該患者には 29 人の供血者から採血された赤血球濃厚液等を輸血。

29 人の供血者と同一の供血者に由来し、同時に製造された原料血漿は 27 本のうち 11 本が確保、16 本が使用済み。新鮮凍結血漿 8 本のうち 6 本は確保済み、2 本は医療機関へ供給済み。18 本の赤血球濃厚液はすべて医療機関へ供給済み。

（2）29 人の供血者について

供血者 29 人のうち、27 人が再採血・献血に来場（27 名の HBV-DNA は全て陰性、そのうち 2 名は HBs 抗体及び HBc 抗体陽性、1 名は HBs 抗体のみ陽性、残る 24 名は HBV 関連検査陰性）。（平成 21 年 1 月 14 日現在、残る 2 名の来訪なし。）

（3）供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 29 人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、すべて陰性であった。

4 今後の対応

（1）供血者 2 人の再献血・検査に係るフォローを行う（再採血の依頼中）。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤で HBV（B 型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （2月20日報告）について

1 経緯

平成19年2月20日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液）によるHBV感染の疑い事例で患者が死亡した症例の報告があった。

2 事例

60歳代の男性。原疾患は消化器腫瘍。平成18年8月3日に、輸血（赤血球濃厚液合計4単位3本）を受ける。

輸血前の血液検査（平成18年7月11日）ではHBs抗原検査陰性であったが、輸血後の平成18年9月26日に、HBs抗原検査陽性となった。10月24日の悪心、嘔吐、腹痛にて受診、AST1364、ALT1306、肝不全を認める。10月25日に多臓器不全により死亡。感染経路が不明であるが、輸血によるHBVの感染が否定できないとの担当医の見解である。

3 状況

（1）輸血された血液製剤について

当該患者には3人の供血者から採血された赤血球濃厚液を輸血。

当該製剤と同一供血者から製造された3本の原料血漿は全て確保済み。

（2）3人の供血者について

3人の供血者のうち、2名が再採血・献血に来場（2名のHBV関連検査は全て陰性）。（平成21年1月14日現在、残る1名の来訪なし。）

（3）供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者3人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、全て陰性であった。

4 今後の対応

（1）供血者1人の再献血・検査にかかるフォローを行う。

（2）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤で HBV（B 型肝炎ウイルス）感染が疑われた事例 （ 2 月 8 日報告 ）について

1 経緯

平成 20 年 2 月 8 日、日本赤十字社から輸血（赤血球濃厚液、血小板濃厚液）による HBV 感染の疑い事例の報告があり、その後 3 月 17 日に、患者が死亡したとの報告があった。

2 事例

80 歳代の男性。原疾患は急性骨髄性白血病。平成 19 年 6 月 28 日から平成 20 年 2 月 3 日にかけて、輸血（赤血球濃厚液合計 78 単位（2 単位 39 本）、血小板濃厚液合計 670 単位（10 単位 67 本））を受ける。

輸血前の血液検査（平成 19 年 6 月 15 日）では HBs 抗原検査陰性、HBc 抗体陰性であったが、輸血後の平成 20 年 2 月 4 日に、HBs 抗原検査陽性、HBe 抗原検査陽性、HBs 抗体検査陰性、HBc 抗体検査陽性、HBV-DNA 検査陽性となった。輸血後の平成 20 年 2 月 6 日に AST 221、ALT 106 となり、3 月 12 日、急性 B 型肝炎にて死亡。輸血と死亡との関連性ありとの担当医の見解である。

3 状況

（ 1 ）輸血された血液製剤について

当該患者には 106 人の供血者から採血された赤血球濃厚液及び血小板濃厚液を輸血。

当該製剤と同一供血者から製造された 95 本の原料血漿のうち、93 本確保済み（2 本使用済み）、11 本の新鮮凍結血漿は全て確保済み。

（ 2 ）106 人の供血者について

106 人の供血者のうち、当該患者の HBs 抗原が陽転化する前（平成 19 年 6 月 28 日から 11 月 28 日）に輸血に使用された血液の供血者は 56 名であり、56 名全てが献血に再来又は再採血に協力いただいた（56 名の HBV-DNA は全て陰性。1 名は EIA 法で HBs 抗原及び HBc 抗体陽性、1 名は HBs 抗体及び HBc 抗体陽性、2 名は HBs 抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）。

（ 3 ）供血者個別 NAT の試験結果

輸血時の供血者 106 人の供血時の保管検体について、個別 NAT を実施したところ、全て陰性であった。

4 今後の対応

（ 1 ）血液の安全対策の推進

「輸血医療の安全確保のための総合対策」を着実に実施する。

輸血用血液製剤でC型肝炎が疑われた事例 (2月15報告)について

1 経緯等

平成18年2月15日、日本赤十字社から輸血(赤血球濃厚液)によるHCV感染の疑いの症例の報告があった。その後、当該症例の死亡が確認され、日本赤十字社から3月8日に追加報告があったものである。

2 事 例

70歳代の男性。原疾患は血液腫瘍。平成17年8月13日から平成18年1月30日までの間に、輸血(濃厚血小板液10単位47本、赤血球濃厚液2単位21本、新鮮凍結血漿5単位7本、同2単位4本、同1単位2本)を実施。患者は、2月19日に急性循環不全により死亡。患者の輸血前(8月12日)のHCV抗体検査は陰性であったが、本年1月30日にHCVコア抗原の陽性が確認され、2月14日のAST/ALTは67/192であった。

3 状 況

(1) 輸血された輸血用製剤について

- ・ 当該患者には、81人の供血者から採血された赤血球製剤、血小板製剤及び新鮮凍結血漿を輸血。
- ・ 当該製剤と同一供血者から製造された70本の原料血漿のうち67本は確保・廃棄済み(3本は使用済み)。新鮮凍結血漿は、14本製造で11本確保済み(3本は医療機関供給済み)。赤血球製剤6本は医療機関供給済み。

(2) 検体検査の状況

- ・ 保管検体81本のHCV個別NATはすべて陰性。
- ・ 供血者81人中78人が献血に再来又は再採血し、HCV関連検査は陰性であった(平成21年1月14日現在、残る3人のその後の来訪なし)。

(3) 患者検体の調査

- ・ 輸血後の検体でHCV-RNA陽性が確認された。

(4) 担当医の見解

- ・ C型肝炎が死期を早めたと思われるが、輸血がC型肝炎の原因であるとの証明はされていないとのこと。

(5) 併用薬等

- ・ 当該患者は、輸血と同時期に乾燥アンチトロンビン、乾燥スルホ化グロブリン、人血清アルブミンを併用していた。

4 今後の対応

- (1) 今後、遡及調査ガイドラインの徹底を進める。
- (2) 再来していない供血者 3 人のフォローアップを引き続き行う。

平成20年度感染症報告事例のまとめ（前回報告分以降）について

- 1 平成20年10月2日報告分から2011年1月28日までに報告（新規及び追加）があった感染症報告（疑い事例を含む。供血者からの情報により開始した遡及調査によるものを除く。）は、輸血用血液製剤35件である。輸血製剤の内訳は、

(1) B型肝炎報告事例：	14
(2) C型肝炎報告事例：	11
(3) HIV感染報告事例：	0
(4) その他の感染症報告事例：	10
- 2 B型肝炎報告事例
 - (1) 輸血前後に感染症検査でHBs抗原（又はHBV-DNA）等が陽転した事例は10例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は3例）。
 - (2) 血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性の事例は1例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例（劇症化例を含む。）である。
- 3 C型肝炎報告事例
 - (1) 輸血前後に抗体検査（又はHCV-RNA）等が陽転した事例は7例（うち、輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性は4例）。
 - (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。
- 4 HIV報告事例
 - (1) 輸血後に抗体検査等が陽転した事例は0例。
 - (2) 使用した血液製剤を提供した献血者の保管検体の個別NAT陽性事例は0例。
 - (3) 輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。
- 5 その他感染症報告事例
 - (1) B型肝炎及びC型肝炎以外の肝障害報告事例は2件。
 - (2) 細菌等感染報告事例において、血液製剤を提供した献血者の保管検体の無菌試験陽性事例は0例。輸血後に死亡（原疾患又は他の原因による死亡を除く）したとの報告を受けた事例は0例。

※症例一覧表において、事前発送資料からの修正・更新点は赤字で表記した。

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告日	一般名	患者性別	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症状等転帰	転帰	供血者発症の場合の供血者(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発症の場合の供血者(抗原、抗体、NAT)(投与時点)
3-08126	A-0800817	2008/10/20	2008/11/4	新鮮凍結人血漿 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	80歳女性	消化器疾患 その他の疾患	B型肝炎	08/03 08/03	HBsAg(-) (05/04) IgM- HBcAb(-) (05/06) HBsAg(-) HBsAb(-) (05/07) HBV-DNA(-) (07/12) HBsAg(-) (08/03)	HBsAg(-) HBcAb(+) (08/07) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcAb(-) (08/09)	-	-	保管検体15本全部 HBV-DNA(-)	人血清アルブミン		24単位 4単位	8/15(7人はHBV関連検査陰性、1人はHBc抗体陽性かつHBs抗体陽性であり、当該献血血時においても同様であった。)	2本の原料血漿、13本の赤血球濃厚液-LRを製造。	原料血漿はすべて使用済み。赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復		
3-08128	A-0800821	2008/11/5	2008/11/19	人赤血球濃厚液-LR 新鮮凍結人血漿-LR	70歳女性	循環器疾患 その他の疾患 血液腫瘍	B型肝炎	08/06 08/06	HBsAg(-) (07/04) HBsAg(-) (07/06) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/06)	HBsAb(-) HBcAb(-) (08/06) HBsAg(+) (08/10) HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBcAb(-) HBcAb(-) (08/10)	HBV-DNA(-) (08/06)	HBV-DNA(+) (08/10)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体6本全部 HBV-DNA(-)		4単位 8単位	1/6(HBV関連検査陰性)	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LR、4本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿、新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み。	重篤	未回復		
3-08131	A-0800824	2008/11/12	2008/11/25	人赤血球濃厚液-LR	40歳男性	その他の疾患	B型肝炎	08/09	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/09)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBsAg(+) HBsAg(-) (08/11) HBV-DNA(+) (08/11)	-	陽性(輸血後)	保管検体3本全部 HBV-DNA(-)			3単位	0/3	2本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み。新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	-	重篤	軽快		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	患者年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症状等転帰	転帰	供血者発病との関係(抗原抗体、NAT)(投与時点)	供血者発病の場合の検査値
3-08134	A-0800827	2008/11/17	2008/12/1	新鮮凍結人血漿-LR 人赤血球濃厚液-LR	女性	20	産科(出血)	B型肝炎	08/08 08/08	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/08)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(+) HBeAb(-) HBcAb(-) IgM-HBcAb(+) (08/11)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/08)	陰性(輸血前陽性(輸血後))	保管検体5本全部HBV-DNA(-)			6単位 4単位	2/5(HBV関連検査陰性)	2本の原料血漿、3本の赤血球濃厚液-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み	赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み。	重篤	軽快		
3-08142	A-0800836	2008/11/27	2008/12/9	人血小板濃厚液(放射線照射)	男性	50	血液腫瘍	B型肝炎	08/09	HBsAg(-) HBsAb(-) (08/04) HBeAg(-) HBeAb(+) HBcAb(+) (08/04)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBsAb(-) HBeAg(+) HBeAb(+) HBcAb(+) IgM-HBcAb(-) (08/11)	-	調査なし	保管検体2本全部HBV-DNA(-)			20単位	2/2(HBV関連検査陰性)	2本の原料血漿を製造。原料血漿はすべて確保済み。	-	重篤	未回復		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症状等	転帰	供血者発場測及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発場測及の場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																							
3-08124	A-0800814	2008/10/10	2008/10/24	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR 人血小板濃厚液(放射線照射)	70歳女性	血液腫瘍	B型肝炎	08/08-09/08/08-10	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/08)	HBsAg(+) HBsAb(-) (08/10)	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/08)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体7本全部HBV-DNA(-)		報告対象外 調査結果を受けて担当医より「副作用・感染症と輸血血液との因果関係なし」とのコメントが得られた。	8単位 30単位	0/7	6本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿はすべて確保済み。新鮮凍結血漿-LRIは確保済み。	-	重篤	軽快		
3-08125	A-0800815	2008/10/14	2008/10/24	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	60歳男性	血液疾患	B型肝炎	08/02-06/08/02	HBV-DNA(-) HBsAg(-) (07/02) HBV-DNA(-) HBsAg(-) (07/07) HBV-DNA(-) HBsAg(-) (07/08) HBV-DNA(-) HBsAg(-) (08/02)	HBsAg(-) (08/05) HBV-DNA(+) (08/07) HBV-DNA(+) (08/09)	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(+) (07/02)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体15本全部HBV-DNA(-)		報告対象外 調査結果を受けて担当医より「副作用・感染症と輸血血液の因果関係なし」とのコメントが得られた。	28単位	7/15(HBV関連検査陰性)	原料血漿は2本使用済み。新鮮凍結血漿-LRは2本医療機関へ供給済み。	未回復	非重篤			
3-08138	A-0800831	2008/11/20	2008/12/4	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	70歳女性	呼吸器疾患	B型肝炎	08/08	HBV-DNA(+) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/08)	HBV-DNA(+) (検出感度以下であるが反応が昇られる) 08/11)	HBV-DNA(-) HBsAg(-) HBsAb(+) HBcAb(-) (08/08)	陽性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体2本全部HBV-DNA(-)	人血清アルブミン	輸血前からの感染と考へられ、医師も関連を否定したため報告対象外 調査結果を受けて担当医より「副作用・感染症と輸血血液の因果関係なし」とのコメントが得られた。	4単位	1/2(HBV関連検査陰性)	2本の原料血漿を製造。原料血漿はすべて確保済み。	-	重篤	不明		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告日	一般名	患者性別	患者年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症状等転帰	転帰	供血者発場 合の供血 者保管検 体(抗原、抗体、NAT) (投与時 点)	供血者発場 合の供血 者保管検 体(抗原、抗体、NAT) (投与時 点)
3-08147	A-0800840	2008/12/15	2008/12/24	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	80	腎・泌尿器系腫瘍	B型肝炎	08/05	HBsAg(-) (08/04) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/04)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(+) (08/11) HBV-DNA(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/04)	HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/11) HBV-DNA(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/04) HBsAg(-) HBsAb(-) HBcAb(-) (08/11)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体2本全部HBV-DNA(-)			4単位	0/2	2本の原料血漿を製造。	原料血漿は全て使用済み。	非重篤	不明		
3-08149	A-0800842	2008/12/16	2008/12/26	人赤血球濃厚液-LR 新鮮凍結人血漿-LR	男	10	循環器疾患	B型肝炎	07/12	HBsAg(-) HBsAb(-) (07/03) HBsAg(-) HBsAb(-) (07/09)	HBsAg(-) HBsAb(+) (08/12) HBcAb(+) HBeAb(+) (08/12)	- HBV-DNA(-)	陰性(輸血後)	保管検体19本全部HBV-DNA(-)			6単位 30単位	12/19(HBV関連検査性)	3本の原料血漿、16本の赤血球濃厚液-LRを製造。	原料血漿は全て使用済み。 赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み。	非重篤	軽快		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	患者年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発病及の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発病及の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)検査値																						
陽転未確認事例																																														
3-08136	A-0800829	2008/11/19	2008/12/3	人赤血球濃厚液-LR新鮮凍結人血漿-LR人血小板濃厚液(放射線照射)	男	70	循環器疾患	B型肝炎	08/01 08/01 08/01	HBsAg(-) (07/11) HBsAg(-) (07/12) HBV-DNA(-) (08/01)	HBV-DNA(-) (08/04) HBsAb(-) HBeAg(-) HBeAb(+) IgM-HBcAb(+) (08/10)	-	調査なし	保管検体11本全部HBV-DNA(-)			12単位 6単位 20単位	4/11(HBV関連検査陰性)	8本の原料血漿、3本の赤血球濃厚液-LRを製造。	原料血漿は全て使用済み。赤血球濃厚液-LRはすべて医療機関へ供給済み。	重篤	未回復																								
3-09004		2009/1/21		人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女	80	血液腫瘍	B型肝炎	08/06-08	HBsAg(-) (08/06)	HBV-DNA(+) HBsAg(+) HBeAg(-) HBeAb(+) (09/01) HBeAb(+) IgM-HBcAb(-) (09/01)	調査中	HBV関連検査実施予定	保管検体3本についてHBV-NAT実施予定			4単位	調査中	調査中	調査中	重篤	調査中																								
輸血によるHCV感染報告例(疑い例を含む。)																																														
供血者陽性事例																																														
(該当例なし)																																														
陽転事例																																														

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症状等転帰	転帰	供血者発病場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発病場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)検査値
輸血後NATで陰性又は輸血前後で陽性																							
3-08129	A-080081200811/19	2008/11/6	2008/11/19	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女性60歳	肝・胆・膵腫瘍	C型肝炎	07/08 07/08	HCV-Ab(-) (07/07)	HCV-Ab(+) (08/10) HCV-Ab(+) (08/10)	HCV-RNA(-) (07/08) HCV-Ab(-) (07/08)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体2本全部HCV-RNA(-)			2単位 1単位	1/2(HCV関連検査陰性)	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。	原料血漿は使用済み。新鮮凍結血漿-LRは医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復		
3-08132	A-080081300811/13	2008/11/13	2008/11/25	人赤血球濃厚液-LR	女性70歳	脳疾患	C型肝炎	07/05	HCV-Ab(-) (07/03) HCV-Ab(-) (07/05)	HCV-Ab(+) (08/11)	HCV-RNA(-) (07/05) HCV-Ab(-) (07/05)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体1本についてHCV-RNA(-)			2単位	0/1	1本の原料血漿を製造。原料血漿は使用済み。	-	非重篤	不明		
3-08139	A-080081300812/4	2008/11/21	2008/12/4	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女性50歳	血液腫瘍	C型肝炎	08/01-06	HCV-Ab(-) (08/01) HCVコアAg(-) (08/07)	HCV-Ab(-) (08/02) HCVコアAg(-) (08/07) HCV-Ab(+) (08/11)	HCV-RNA(-) (08/01) HCV-Ab(-) (08/01)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体14本全部HCV-RNA(-)		報告対象外 調査結果を受けて担当医より「副作用・感染症と輸血血液との因果関係なしと考えらる」とのコメントが得られた。	26単位	7/14(HCV関連検査陰性)	11本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿は2本確保済み。新鮮凍結血漿-LRは2本確保済み。	原料血漿は9本使用済み。新鮮凍結血漿-LR 1本は医療機関へ供給済み。	非重篤	未回復		
3-08144	2008/12/8 2008/12/22 報告破棄FAX			人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男性40歳	糖尿病その他の疾患	C型肝炎	08/05	HCVコアAg(-) (08/05) HCV-Ab(+) (08/05)	HCVコアAg(+) (08/11)	HCV-RNA(+) (08/05) HCV-Ab(+) (08/05)	陽性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体1本(全部)についてHCV-RNA(-)		報告破棄 担当医より因果関係なしと見解が得られた。	2単位	0/1	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	非重篤	未回復		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与前検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)検査値
3-09003		2009/1/19 2009/1/30 報告破棄FAX		人赤濃厚液-LR 人赤濃厚液(放射線照射)-LR 人血小板濃厚液(放射線照射) 人血小板濃厚液	60男	血液腫瘍	C型肝炎	07/09 - 08/02 07/09 08/02 07/09 08/02 07/09 -12	HCV-Ab(-) (07/09) HCV-RNA(-) (07/09) HCV-Ab(+) (08/12)	HCV-Ab(-) (07/09) HCV-RNA(-) (07/09) HCV-Ab(+) (08/12)	HCV-Ab(-) (09/01)	陰性(輸血前) 陰性(輸血後)	保管検体41本全部HCV-RNA(-)		報告破棄担当医より因果関係なしとの見解が得られた。	34単位 10単位 110単位 80単位	28/41 (HCV関連検査陰性)	38本の原料血漿、3本の新鮮凍結血漿-LRを製造。	原料血漿は全て使用済み。 新鮮凍結血漿-LRは全て医療機関へ供給済み。	重篤	回復		
陽転未確認事例																							
3-08140	A-080033	2008/11/21	2008/12/4	人赤濃厚液(放射線照射)-LR	50男	腎・泌尿器疾患	C型肝炎	08/08 -	-	HCV-Ab(-) (08/08) HCV-Ab(+) HCV-RNA(+) (08/11)	HCV-RNA(-) (08/08) HCV-RNA(+) HCV-Ab(+) (08/11)	陰性(輸血後) 陽性(輸血後)	保管検体2本全部HCV-RNA(-)			4単位	1/2(HCV関連検査陰性)	2本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。	-	重篤	未回復		
3-09005		2009/1/22		人赤濃厚液-LR 人血小板濃厚液(放射線照射)	50男	血液腫瘍	C型肝炎	08/12 08/12 08/12 09/01	HCVコアAg(-) HCV-Ab(-) (08/12)	HCVコアAg(+) (09/01)	調査中	HCV関連検査実施予定	保管検体17本についてHCV-NAT実施予定			14単位 140単位	調査中	調査中	調査中	重篤	未回復		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症状等転帰	転帰	献血者発症の場合の供血者保体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	献血者発症及び献血者の検査値
輸血による細菌等感染報告例(疑い例を含む。)																							
3-08143	A-08008037	2008/12/2	2008/12/15	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	80歳男性	生殖器腫瘍・その他の疾患	急性肝炎・E型肝炎	08/04	-	AST266 ALT486 HBsAg(-) HBsAb(-) HCV-Ab(-) (08/05) 急性肝炎として点滴治療	HEV-RNA(-) IgM- HEVAb(+) IgG- HEVAb(+) (08/12)	陰性(輸血後)	保管検体1本(全部)についてHEV-RNA(+)		同一供血者製剤の国内血漿分画製造業者による「血漿分画製造に係る原料血漿の精査」において献血者HEV-RNA陽性の情報提供に對しての症例報告です。	2単位	0/1	-		非重篤	軽快		
3-08146	A-08008039	2008/12/15	2008/12/24	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	60歳男性	消化器腫瘍	肝機能異常・E型肝炎	08/04	-	AST59,ALT39	HEV-RNA(-) IgM- HEVAb(-) IgG- HEVAb(-) (08/04)	陰性(輸血前)陽性(輸血後)	保管検体1本(全部)についてHEV-RNA(+)	乾燥ポリエチレンコーグル処理免疫グロブリン	同一供血者製剤の国内血漿分画製造業者による「血漿分画製造に係る原料血漿の精査」において献血者HEV-RNA陽性の情報提供に對しての症例報告です。 患者検体と献血者(HEV陽性保管検体)とのHEV塩基配列の相同性について調査。	2単位	0/1	-		非重篤	不明	患者検体と献血者検体(HEV陽性保管検体)とでORF1の326塩基及びORF2の412塩基の2領域において塩基配列を比較したところ患者と献血者の塩基配列はすべて一致した。献血者と患者のHEVウイルスはGenotype 3であった。	

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	患者年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	献血者	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)
3-08122	A-0800811	2008/10/9	2008/10/23	人血小板濃厚液(放射線照射)	女性	50	血液腫瘍	細菌感染	08/10	-	2日にわたり輸血開始後、副作用出現。患者血液培養実施、陰性。	-	-	-	-	乾燥人スルホ化人免疫グロブリン	採血3、4日目の照射濃厚血小板(2本)	20単位	-	2本の原料血漿を製造。原料血漿は全て確保済み。	-	重篤	回復		
3-08130	A-0800823	2008/11/7	2008/11/19	人血小板濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男性	60	血液腫瘍	細菌感染	08/09	-	輸血開始時BT37℃ BP73/38 3時間後BT37.5℃ 約4時間後BT38.8℃ 院内にて実施の患者血液培養よりBacillus sp.を検出。	-	-	-	-		被疑薬: 採血3日目の照射濃厚血小板(1本) 採血18日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本) 調査結果を受けて担当医より「副作用・感染症と輸血血液との因果関係は不明である。」とのコメントが得られた。	10単位 2単位	-	2本の原料血漿を製造。原料血漿はすべて確保済み。	-	重篤	軽快 患者は形質細胞白血病にて死亡、剖検なし。担当医の見解		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	患者年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症状等転帰	転帰	供血者発場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)
3-08133	A-0800800826	2008/11/17	2008/12/1	人赤血球濃厚液-LR 人血小 板濃厚 液(放射線照射)	男	60	血液腫瘍	細菌感染	08/11 08/11	BT 36.9℃ 輸血終了抜針、悪寒戦慄あり(輸血前 BT 36.6℃→輸血後 BT 38.3℃)。 院内にて実施の患者血液培養は陰性。	-	-	-	-	-	被疑薬: 採血9日目の赤血球濃厚液-LR(1本) 採血3日目の照射濃厚血小板(1本)	2単位 10単位	-	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。すべて確保済み。	-	非重篤	回復		
3-08141	A-0800800835	2008/11/27	2008/12/9	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	男	60	肝・胆・膵腫瘍	細菌感染	08/11	輸血開始後25分で38℃の発熱。 院内にて実施の患者血液培養によりグラム陰性桿菌 Enterobacter cloacaeを検出。	-	-	-	-	-	被疑薬: 採血9日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本) 調査結果を受けて担当医より細菌感染と輸血血液との因果関係なしと考える」とのコメントが得られた。	2単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は確保済み。	-	重篤	軽快		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	患者年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	供血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症状等	転帰	供血者発場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発場合の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)
3-08145	A-08000838	2008/12/8	2008/12/22	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	女性	70	血液腫瘍	細菌感染症	08/12	輸血開始時、バイタル問題なし。	輸血開始約1時間後、BT36.3℃、BP180/105、P72、輸血中止。その後、輸血再開。輸血再開約1時間半後、BT38℃その後、輸血終了。発熱あるも胸痛等なし。輸血終了約2時間半後、BT37.9℃、BP114/62、P90輸血終了約4時間半後、P140台に上昇。輸血翌日、悪寒、戦慄出現。BT39.5℃、BP124/82、HR140 院内にて実施の患者血液培養は陰性。	-	-	-	-	被疑薬： 採血7日目の照射赤血球濃厚液-LR(1本) 調査結果を受けて担当医より「輸血開始後の発熱、悪寒、シヨック等の症状より副作用・感染症と輸血血液との因果関係ありと考えらる」とのコメントが得られた。	2単位	-	1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。確保済み。	-	重篤	軽快		

日赤番号	識別番号	FAX受付日	報告受領日	一般名	患者性別	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査(年月)	投与後検査(年月)	日赤投与後検査	受血者個別NAT	献血者個別NAT	併用血液製剤等	備考	使用単位数	献血者再献血※	同一供血者製剤確保※	同一供血者製剤使用※	感染症等転帰	転帰	供血者発場測及の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)	供血者発場測及の供血者保管検体(抗原、抗体、NAT)(投与時点)
3-08148	A-0800841	2008/12/16	2008/12/26	人赤血球濃厚液(放射線照射)-LR	70歳女性	循環器疾患、血液疾患	細菌感染症	08/12	-	輸血開始時BT35.8℃ BP102/56 P114 15分後BT36.7℃ BP104/60 P90 輸血開始2時間後BT38.3℃ BP102/58 P122 その後38.5℃台を認め入院3時間後BT39.0℃ BP150/80 P124 翌日BT37.4℃ 3日後BT38.2℃ 6日後BT36.7℃ 院内にて実施の患者血液培養にてStreptococcus vestibularisを検出	-	-	-	-	被疑薬：採血9、12日目の照射赤血球濃厚液-LR(2本)2008/12/12に副作用名「発熱・輸血後溶血・急性腎不全の疑い」として情報入手し30日報告の準備を進めていたが12月15日に患者血液培養より細菌が検出されたとの追加情報を入手し細菌感染も疑われるとの担当医の見解が得られたため感染症症例として報告する。	4単位	-	1本の原料血漿、1本の新鮮凍結血漿-LRを製造。原料血漿、新鮮凍結血漿-LRは確保済み。	-	重篤	軽快		
3-09002	A-0800845	2009/1/9	2009/1/23	人血小板濃厚液(放射線照射)	80歳男性	血液腫瘍	細菌感染症	09/01	-	BT38.6℃ BP90/-mmHg 院内にて実施の患者血液培養は陰性。	-	-	-	-	被疑薬：採血4日目の血小小板(1本)調査結果を医より細菌感染と輸血果関係なしと考える」のコメントが得られた。	10単位	-	1本の原料血漿を製造。原料血漿は使用の有無を調査中。	調査中	重篤	調査中		

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について

(輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内 調査期間:平成 17 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日			
	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1～H18. 2 ^{*1}	341, 174	45	1／7, 582
H18. 3～H20. 12 ^{*2}	758, 005	97	1／7, 814
合計	1, 099, 179	142	1／7, 741

*1 北海道センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体も含む)

*2 血漿分画センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体は除く)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳

別添

2. HEV-RNA陽性者の内訳

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
1	2005/01/04	32	M	57	—	—	+	無	不明レバー	生	無	
2	2005/02/07	38	F	11	—	—	+	無	ブタレバー	生	無	
3	2005/02/13	41	M	103	—	—	+	無	回答なし		無	
4	2005/03/25	65	F	17	—	—	+	無	回答なし		無	
5	2005/03/27	26	M	38	—	—	+	有	不明レバー（問診時）	生	有	赤血球製剤破損のため院内廃棄
6	2005/04/10	54	F	20	—	—	+	無	ウシ精肉	半生	無	
7	2005/04/15	59	F	16	—	—	+	無	ブタホルモン、シカ精肉	十分加熱	無	
8	2005/04/15	35	F	16	—	—	+	無	シカ精肉、ウシ精肉 ウシレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
9	2005/04/20	25	M	24	+	+	+	無	ウシレバー、ウシ精肉 ウシホルモン、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	感染なし
10	2005/04/28	22	M	44	—	—	+	無	回答なし		無	
11	2005/06/07	42	M	24	+	+	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
12	2005/06/22	51	M	52	—	—	+	無	回答なし		無	
13	2005/07/03	58	M	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
14	2005/07/05	22	M	23	+	—	+	無	回答なし		無	
15	2005/07/05	38	M	15	—	—	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無	
16	2005/07/13	24	M	19	—	—	+	無	ウシレバー	生	有	原疾患により死亡
17	2005/09/02	33	M	49	—	—	+	無	ウシ精肉 ヒツジ精肉 ブタホルモン、ブタ精肉	生 半生 十分加熱	無	
18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無	ウシホルモン、ヒツジ精肉 ウシレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
19	2005/09/20	42	M	31	—	—	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み)
20	2005/09/27	20	F	10	—	—	+	無	ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
21	2005/10/21	41	M	12	—	—	+	無	回答なし		無	
22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
23	2005/11/07	30	F	21	—	—	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
24	2005/11/07	31	F	12	+	+	+	有	ブタレバー、ブタホルモン、ウシ精肉	十分加熱	無	
25	2005/11/20	28	M	47	+	+	+	有	ウシレバー、ウマ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	生 十分加熱	無	
26	2005/11/29	35	F	333	+	+	+	有	回答なし		無	
27	2005/12/13	42	M	30	—	—	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
28	2005/12/13	30	M	11	—	—	+	有	不明レバー	十分加熱	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)
29	2005/12/22	62	F	14	—	—	+	無	回答なし		無	
30	2005/12/27	42	F	14	—	—	+	無	回答なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
31	2006/01/02	22	F	12	—	—	+	有	ウシレバー、ウシ精肉	十分加熱	無	
32	2006/01/06	68	M	23	—	—	+	無	ウシレバー、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無	
33	2006/01/13	36	M	42	—	—	+	無	ウマ精肉、不明レバー ウシ精肉、ヒツジ精肉、ブタホルモン ウシレバー、ブタ精肉、ブタホルモン	半生 十分加熱	無	
34	2006/01/18	53	M	238	+	+	+	有	ウシレバー、ウシホルモン	十分加熱	無	
35	2006/01/13	31	M	43	—	—	+	有	不明レバー ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
36	2006/01/17	48	M	25	—	—	+	無	回答なし		無	
37	2006/01/25	52	M	25	—	—	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	輸血後89日現在、HEVマーカーの陽転は見られず追跡調査終了
38	2006/01/30	39	F	22	—	—	+	無	回答なし		無	
39	2006/01/30	25	M	32	—	—	+	有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無	
40	2006/02/02	39	F	35	—	+	+	有	ウシレバー ウシレバー ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
41	2006/02/07	57	M	13	—	—	+	無	不明	不明	無	
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無	
43	2006/02/17	39	M	28	—	—	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉 イノシシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
44	2006/02/20	58	M	22	—	—	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無	
45	2006/02/21	45	M	30	—	—	+	無	ウシ精肉 ブタ精肉、ブタレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
46	2006/03/01	46	F	15	—	—	+	無	回答なし		無	
47	2006/03/01	50	F	29	—	—	+	無	回答なし		無	
48	2006/03/02	54	M	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
49	2006/03/27	40	F	12	—	—	+	無	回答なし		無	
50	2006/04/01	31	F	16	—	—	+		ヒツジ精肉	半生	無	
51	2006/04/04	30	F	14	—	—	+		ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無	
52	2006/04/12	38	M	45	+	+	+		ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
53	2006/04/18	21	M	26	—	—	+		ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生 十分加熱	無	
54	2006/04/22	28	M	14	+	+	+		回答なし		無	
55	2006/04/26	46	M	19	—	—	+		ブタレバー	半生	無	
56	2006/05/18	62	M	27	—	—	+		ヒツジレバー	十分加熱	無	
57	2006/07/07	17	M	33	—	—	+		回答なし		無	
58	2006/07/11	34	F	10	—	—	+		回答なし		無	
59	2006/07/12	21	F	27	—	—	+		回答なし		無	
60	2006/07/22	49	M	46	+	—	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
61	2006/08/01	62	M	18	—	—	+		ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
62	2006/09/06	44	F	14	—	—	+		喫食歴なし		無	
63	2006/09/29	68	M	15	—	—	+		ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
64	2006/10/21	29	M	22	—	—	+		不明		無	
65	2006/11/19	48	M	58	—	—	+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
66	2006/11/23	54	M	18	—	—	+		回答なし		無	
67	2006/12/01	43	M	55	—	+	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
68	2006/12/04	60	M	46	+	+	+		ウシ精肉	十分加熱	無	
69	2006/12/04	47	M	40	+	+	+		ウシ精肉、ウシホルモン	十分加熱	無	
70	2007/03/01	33	M	41	—	—	+		ウシレバー	生	無	
71	2007/03/15	42	M	32	—	+	+		ブタレバー、ブタホルモン	半生	無	
72	2007/03/27	55	M	30	—	—	+		不明レバー	十分加熱	無	
73	2007/04/07	22	F	9	—	—	+		ユッケ ウシホルモン、ヒツジホルモン	生 十分加熱	無	
74	2007/05/16	47	F	15	—	—	+		ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
75	2007/05/18	40	F	27	+	+	+		ブタ生ハム(自家製)	半生	無	
76	2007/05/30	33	M	26	—	+	+		ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
77	2007/06/22	38	M	20	—	—	+		ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
78	2007/06/25	45	M	37	+	+	+		ブタ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
79	2007/06/27	37	M	18	—	—	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
80	2007/07/24	57	M	24	—	—	+		喫食歴なし		無	
81	2007/07/29	37	M	48	—	—	+		不明レバー、ブタホルモン 不明レバー、ブタホルモン	十分加熱 半生	無	
82	2007/07/31	48	M	30	—	—	+		ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
83	2007/08/01	48	M	33	—	—	+		ブタ精肉 ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
84	2007/08/04	53	M	28	—	—	+		ヒツジ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
85	2007/08/26	50	M	60	—	—	+		ヒツジ精肉 ウシ精肉	十分加熱 生	無	
86	2007/09/05	41	M	29	—	—	+		喫食歴なし		無	
87	2007/09/18	41	M	23	—	—	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ウシホルモン、ブタホルモン	半生	無	
88	2007/09/21	57	M	19	—	—	+		ブタホルモン	十分加熱	無	
89	2007/10/03	59	M	39	—	—	+		ブタレバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
90	2007/10/03	19	M	40	—	—	+		喫食歴なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
91	2007/10/09	35	M	19	—	—	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
92	2007/10/18	30	M	31	—	—	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
93	2007/11/16	24	M	5	—	—	+		不明		無	
94	2007/11/16	54	M	22	—	+	+		ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
95	2007/11/16	45	M	47	—	—	+		ブタ精肉 ブタレバー	十分加熱 半生	無	
96	2007/11/19	58	M	13	—	—	+		レバー、ホルモン	不明	無	
97	2007/11/19	24	M	46	—	—	+		不明		無	
98	2007/11/24	36	M	25	—	—	+		不明		無	
99	2007/11/29	42	M	21	—	+	+		不明		無	
100	2007/11/30	31	M	42	+	+	+		レバー	不明	無	
101	2008/01/08	35	M	36	—	—	+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
102	2008/01/17	48	F	13	+	+	+		ブタホルモン、シカ精肉 ウシ精肉	十分加熱 半生	無	
103	2008/01/29	57	M	22	—	—	+		ブタレバー、ブタホルモン	十分加熱	無	
104	2008/02/04	31	M	47	+	+	+		不明		無	
105	2008/02/06	57	M	20	—	—	+		ブタホルモン	十分加熱	無	
106	2008/02/13	42	M	35	—	—	+		不明レバー	十分加熱	無	
107	2008/02/13	60	M	37	+	+	+		不明		無	
108	2008/03/11	30	M	21	—	—	+		不明		無	
109	2008/03/25	34	F	26	—	—	+		喫食歴なし		無	
110	2008/03/26	32	M	41	+	+	+		ブタ精肉、ウシ精肉	十分加熱	無	
111	2008/03/29	54	M	26	—	—	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
112	2008/03/30	19	F	9	—	—	+		不明レバー	十分加熱	無	
113	2008/04/16	48	M	13	—	—	+		不明		無	
114	2008/05/12	33	M	12	—	—	+		ブタ精肉、ブタホルモン	半生	無	
115	2008/05/28	39	F	29	—	—	+		不明		無	
116	2008/05/28	47	M	46	—	—	+		ブタホルモン	十分加熱	無	
117	2008/06/04	43	M	38	+	+	+		ウシレバー ウシホルモン、ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	生 十分加熱	無	
118	2008/06/07	42	M	11	—	—	+		ウシレバー ブタ精肉	生 十分加熱	無	
119	2008/06/23	48	M	17	—	—	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生	無	
120	2008/07/10	39	M	32	—	—	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉 ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
121	2008/07/11	39	M	28	—	—	+		不明		無	
122	2008/07/26	34	M	35	—	—	+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
123	2008/07/27	36	M	45	—	—	+		不明		無	
124	2008/07/30	24	M	10	—	—	+		不明		無	
125	2008/08/20	19	M	17	+	—	+		不明		無	
126	2008/09/03	30	M	28	—	—	+		不明		無	
127	2008/09/08	35	M	16	—	—	+		不明		無	
128	2008/09/09	23	F	24	—	—	+		ブタ、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
129	2008/09/16	33	F	18	+	+	+		不明		無	
130	2008/09/16	58	M	21	—	—	+		不明		無	
131	2008/09/17	62	M	37	—	—	+		ウシレバー、ブタレバー	十分加熱	無	
132	2008/09/23	42	M	36	—	—	+		ブタ精肉、ブタレバー	十分加熱	無	
133	2008/09/25	35	M	16	—	—	+		不明		無	
134	2008/09/27	30	M	22	—	—	+		不明		無	
135	2008/10/10	50	M	31	—	—	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	不明	無	
136	2008/10/11	39	F	15	—	—	+		ウマ精肉	生	無	
137	2008/10/14	56	M	13	—	—	+		不明レバー	生	無	
138	2008/10/18	38	F	23	—	—	+		不明		無	
139	2008/11/03	37	M	22	—	—	+		ウシホルモン、ブタ精肉	半生	無	
140	2008/11/11	41	F	11	—	—	+		不明		無	
141	2008/12/05	52	M	18	—	—	+		ブタレバー	十分加熱	無	
142	2008/12/20	47	M	22	—	—	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	十分加熱	無	

※1：問診喫食歴調査内容
05年 1月1日～05年10月31日：「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」
05年11月1日～06年03月31日：「過去3ヶ月以内に生肉（半生も含む）、レバー、ホルモン（動物種、焼き方を問わず）の喫食歴」、なお本調査は06年03月31日をもって終了

事 務 連 絡
平成 2 1 年 1 月 8 日

日本赤十字社血液事業本部 御中

薬事・食品衛生審議会血液事業部会事務局
厚生労働省医薬食品局血液対策課

血液製剤に関する報告事項について

血液事業の推進に御努力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、標記につきましては、平成 2 0 年 1 0 月 9 日付け血安第 4 0 9 号にて貴社から報告を頂いたところですが、平成 2 1 年 2 月 1 0 日（火）に平成 2 0 年度第 4 回血液事業部会運営委員会が開催されますので、下記の事項について資料を作成いただき、平成 2 1 年 1 月 1 4 日（水）までに当事務局あて御提出いただきますようお願いいたします。記の 1 2 については、平成 2 0 年 1 0 月 2 9 日開催平成 2 0 年度第 3 回血液事業部会運営委員会提出資料を更新のうえ、再度御提出ください。

なお、資料の作成に当たっては、供血者、患者及び医療機関の名称並びにこれらの所在地又はこれらの事項が特定できる情報を記載しないよう、個人情報及び法人情報の保護に特段の御配慮をお願いします。

記

1. 平成 1 5 年 9 月 5 日付けで報告された輸血用血液製剤で H I V の感染が疑われる事例について、残る 2 人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
2. 平成 1 6 年 3 月 2 2 日付けで報告された輸血用血液製剤で H B V （B 型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る 5 人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
3. 平成 1 6 年 1 1 月 2 6 日付けで報告された輸血用血液製剤で H B V （B 型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る 8 人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
4. 平成 1 7 年 1 月 1 2 日付けで報告された輸血用血液製剤で H B V （B 型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る 4 人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

査結果。来訪がなければ、その旨。

5. 平成17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
6. 平成17年6月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
7. 平成18年4月7日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る9人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
8. 平成18年6月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
9. 平成19年2月20日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
10. 平成20年2月8日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
11. 平成18年2月15日報告、3月8日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV（C型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る3人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
12. 試行的HEV20プールNATについて、その後の調査実施状況。

平成21年1月14日

厚生労働省医薬食品局血液対策課長 様

日本赤十字社

血液事業本部長

血液製剤に関する報告事項について（回答）

平成21年1月8日付事務連絡によりご依頼のありました標記の件については、下記により回答いたします。

記

1. 平成15年9月5日付けで報告された輸血用血液製剤でH I Vの感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る2人のその後の来訪なし。（8名中6名が来所、検査は全て陰性）
2. 平成16年3月22日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る5人のその後の来訪なし。（37名中32名が来所、検査は全て陰性）
3. 平成16年11月26日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る8人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る8人のその後の来訪なし。（48名中40名が来所、検査は全て陰性）
4. 平成17年1月12日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る4人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る4人のその後の来訪なし。（16名中12名が来所、検査は全て陰性）
5. 平成17年2月4日付けで報告された輸血用血液製剤でH B V（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。
⇒ 残る1人のその後の来訪なし。（追跡調査対象の4名中3名が来所、HBV-DNAは

全て陰性。1名はHBc抗体がEIA法のみ陽性HI法陰性、その他の者は全て陰性)

6. 平成17年6月23日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る5人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 1人がその後献血に協力頂き、検査は陰性。残る4人の来訪なし。（20名中16名が来所、検査は全て陰性）

7. 平成18年4月7日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る9人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 残る9人のその後の来訪なし。（53名中44名が来所、HBV-DNAは全て陰性。
2名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、1名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）

8. 平成18年6月5日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る2人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 残る2人のその後の来訪なし。（29名中27名が来所、HBV-DNAは全て陰性。
2名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、1名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）

9. 平成19年2月20日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 残る1人のその後の来訪なし。（3名中2名が来所、検査は全て陰性）

10. 平成20年2月8日付けで報告された輸血用血液製剤でHBV（B型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る1人の供血者のその後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 残る1人がその後献血に協力いただき、検査は陰性。（56名中56名全員が来所、HBV-DNAは全て陰性。1名*はEIA法でHBs抗原及びHBc抗体陽性、1名はHBc抗体及びHBs抗体陽性、2名はHBs抗体のみ陽性、その他の者は全て陰性）
*再採血時にEIA法でHBs抗原及びHBc抗体陽性であった1人については、当該献血時においてもEIA法でHBs抗原及びHBc抗体陽性であった。

11. 平成18年2月15日報告、3月8日付けで追加報告された輸血用血液製剤でHCV（C型肝炎ウイルス）感染が疑われる事例について、残る3人の供血者のその

後の検査結果。来訪がなければ、その旨。

⇒ 残る 3 人のその後の来訪なし。(81 名中 78 名が来所、検査は全て陰性)

12. 試行的HEV20プールNATについて、その後の調査実施状況。

⇒ 別紙のとおり

試行的 HEV20 プール NAT 実施状況について

(輸血後 HEV 感染の予防対策)

1. 試行的 HEV20 プール NAT 実施状況

北海道赤十字血液センター管内 調査期間:平成 17 年 1 月 1 日～平成 20 年 12 月 31 日			
	献血者数	HEV-RNA 陽性	陽性率
H17. 1～H18. 2 ^{*1}	341, 174	45	1／7, 582
H18. 3～H20. 12 ^{*2}	758, 005	97	1／7, 814
合計	1, 099, 179	142	1／7, 741

*1 北海道センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体も含む)

*2 血漿分画センターにて NAT 実施(ALT 高値、検査不合格検体は除く)

2. HEV-RNA 陽性献血者の内訳

別添

2. HEV-RNA陽性者の内訳

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
1	2005/01/04	32	M	57	—	—	+	無	不明レバー	生	無	
2	2005/02/07	38	F	11	—	—	+	無	ブタレバー	生	無	
3	2005/02/13	41	M	103	—	—	+	無	回答なし		無	
4	2005/03/25	65	F	17	—	—	+	無	回答なし		無	
5	2005/03/27	26	M	38	—	—	+	有	不明レバー(問診時)	生	有	赤血球製剤破損のため院内廃棄
6	2005/04/10	54	F	20	—	—	+	無	ウシ精肉	半生	無	
7	2005/04/15	59	F	16	—	—	+	無	ブタホルモン、シカ精肉	十分加熱	無	
8	2005/04/15	35	F	16	—	—	+	無	シカ精肉、ウシ精肉 ウシレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
9	2005/04/20	25	M	24	+	+	+	無	ウシレバー、ウシ精肉 ウシホルモン、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	感染なし
10	2005/04/28	22	M	44	—	—	+	無	回答なし		無	
11	2005/06/07	42	M	24	+	+	+	無	ウシ精肉 ウシホルモン、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
12	2005/06/22	51	M	52	—	—	+	無	回答なし		無	
13	2005/07/03	58	M	219	+	+	+	無	不明レバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
14	2005/07/05	22	M	23	+	—	+	無	回答なし		無	
15	2005/07/05	38	M	15	—	—	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	半生	無	
16	2005/07/13	24	M	19	—	—	+	無	ウシレバー	生	有	原疾患により死亡
17	2005/09/02	33	M	49	—	—	+	無	ウシ精肉 ヒツジ精肉 ブタホルモン、ブタ精肉	生 半生 十分加熱	無	
18	2005/09/01	29	F	100	+	+	+	無	ウシホルモン、ヒツジ精肉 ウシレバー、ウシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
19	2005/09/20	42	M	31	—	—	+	無	ブタホルモン、不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	HEV感染(H17.11.1 運営委員会報告済み)
20	2005/09/27	20	F	10	—	—	+	無	ウシ精肉、ブタホルモン、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
21	2005/10/21	41	M	12	—	—	+	無	回答なし		無	
22	2005/10/25	44	F	38	+	+	+	無	ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
23	2005/11/07	30	F	21	—	—	+	無	ブタホルモン、ウシ精肉、ヒツジ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
24	2005/11/07	31	F	12	+	+	+	有	ブタレバー、ブタホルモン、ウシ精肉	十分加熱	無	
25	2005/11/20	28	M	47	+	+	+	有	ウシレバー、ウマ精肉 ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉	生 十分加熱	無	
26	2005/11/29	35	F	333	+	+	+	有	回答なし		無	
27	2005/12/13	42	M	30	—	—	+	有	ウシ精肉、ヒツジ精肉 不明レバー、ブタ精肉	半生 十分加熱	有	原疾患により死亡
28	2005/12/13	30	M	11	—	—	+	有	不明レバー	十分加熱	有	HEV感染(H18.01.26 運営委員会報告済み)
29	2005/12/22	62	F	14	—	—	+	無	回答なし		無	
30	2005/12/27	42	F	14	—	—	+	無	回答なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
31	2006/01/02	22	F	12	—	—	+	有	ウシレバー、ウシ精肉	十分加熱	無	
32	2006/01/06	68	M	23	—	—	+	無	ウシレバー、ブタホルモン、ヒツジ精肉	半生	無	
33	2006/01/13	36	M	42	—	—	+	無	ウマ精肉、不明レバー ウシ精肉、ヒツジ精肉、ブタホルモン ウシレバー、ブタ精肉、ブタホルモン	半生 十分加熱	無	
34	2006/01/18	53	M	238	+	+	+	有	ウシレバー、ウシホルモン	十分加熱	無	
35	2006/01/13	31	M	43	—	—	+	有	不明レバー ブタ精肉、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
36	2006/01/17	48	M	25	—	—	+	無	回答なし		無	
37	2006/01/25	52	M	25	—	—	+	無	不明レバー、ヒツジ精肉	十分加熱	有	輸血後89日現在、HEVマーカーの陽転は見られず追跡調査終了
38	2006/01/30	39	F	22	—	—	+	無	回答なし		無	
39	2006/01/30	25	M	32	—	—	+	有	ウシ精肉、ウシホルモン、ブタ精肉	十分加熱	無	
40	2006/02/02	39	F	35	—	+	+	有	ウシレバー ウシレバー ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
41	2006/02/07	57	M	13	—	—	+	無	不明	不明	無	
42	2006/02/07	40	F	172	+	+	+	無	ウシ精肉	十分加熱	無	
43	2006/02/17	39	M	28	—	—	+	無	ブタホルモン、ブタレバー、ブタガツ、ヒツジ精肉 イノシシ精肉、ブタ精肉	半生 十分加熱	無	
44	2006/02/20	58	M	22	—	—	+	無	ヒツジ精肉	十分加熱	無	
45	2006/02/21	45	M	30	—	—	+	無	ウシ精肉 ブタ精肉、ブタレバー、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	
46	2006/03/01	46	F	15	—	—	+	無	回答なし		無	
47	2006/03/01	50	F	29	—	—	+	無	回答なし		無	
48	2006/03/02	54	M	47	+	+	+	無	ウシ・ブタ(精肉、レバー、ホルモン)、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
49	2006/03/27	40	F	12	—	—	+	無	回答なし		無	
50	2006/04/01	31	F	16	—	—	+		ヒツジ精肉	半生	無	
51	2006/04/04	30	F	14	—	—	+		ブタ精肉、不明レバー	十分加熱	無	
52	2006/04/12	38	M	45	+	+	+		ブタレバー、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
53	2006/04/18	21	M	26	—	—	+		ウシ精肉、ウシホルモン ウシ精肉、ウシホルモン	半生 十分加熱	無	
54	2006/04/22	28	M	14	+	+	+		回答なし		無	
55	2006/04/26	46	M	19	—	—	+		ブタレバー	半生	無	
56	2006/05/18	62	M	27	—	—	+		ヒツジレバー	十分加熱	無	
57	2006/07/07	17	M	33	—	—	+		回答なし		無	
58	2006/07/11	34	F	10	—	—	+		回答なし		無	
59	2006/07/12	21	F	27	—	—	+		回答なし		無	
60	2006/07/22	49	M	46	+	—	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
61	2006/08/01	62	M	18	—	—	+		ブタホルモン、ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
62	2006/09/06	44	F	14	—	—	+		喫食歴なし		無	
63	2006/09/29	68	M	15	—	—	+		ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
64	2006/10/21	29	M	22	—	—	+		不明		無	
65	2006/11/19	48	M	58	—	—	+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
66	2006/11/23	54	M	18	—	—	+		回答なし		無	
67	2006/12/01	43	M	55	—	+	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
68	2006/12/04	60	M	46	+	+	+		ウシ精肉	十分加熱	無	
69	2006/12/04	47	M	40	+	+	+		ウシ精肉、ウシホルモン	十分加熱	無	
70	2007/03/01	33	M	41	—	—	+		ウシレバー	生	無	
71	2007/03/15	42	M	32	—	+	+		ブタレバー、ブタホルモン	半生	無	
72	2007/03/27	55	M	30	—	—	+		不明レバー	十分加熱	無	
73	2007/04/07	22	F	9	—	—	+		ユッケ ウシホルモン、ヒツジホルモン	生 十分加熱	無	
74	2007/05/16	47	F	15	—	—	+		ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
75	2007/05/18	40	F	27	+	+	+		ブタ生ハム(自家製)	半生	無	
76	2007/05/30	33	M	26	—	+	+		ヒツジ精肉、ブタホルモン	十分加熱	無	
77	2007/06/22	38	M	20	—	—	+		ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
78	2007/06/25	45	M	37	+	+	+		ブタ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
79	2007/06/27	37	M	18	—	—	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
80	2007/07/24	57	M	24	—	—	+		喫食歴なし		無	
81	2007/07/29	37	M	48	—	—	+		不明レバー、ブタホルモン 不明レバー、ブタホルモン	十分加熱 半生	無	
82	2007/07/31	48	M	30	—	—	+		ブタ精肉、ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
83	2007/08/01	48	M	33	—	—	+		ブタ精肉 ウシ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
84	2007/08/04	53	M	28	—	—	+		ヒツジ精肉 ヒツジ精肉	十分加熱 半生	無	
85	2007/08/26	50	M	60	—	—	+		ヒツジ精肉 ウシ精肉	十分加熱 生	無	
86	2007/09/05	41	M	29	—	—	+		喫食歴なし		無	
87	2007/09/18	41	M	23	—	—	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ウシホルモン、ブタホルモン	半生	無	
88	2007/09/21	57	M	19	—	—	+		ブタホルモン	十分加熱	無	
89	2007/10/03	59	M	39	—	—	+		ブタレバー、ブタ精肉	十分加熱	無	
90	2007/10/03	19	M	40	—	—	+		喫食歴なし		無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
91	2007/10/09	35	M	19	—	—	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
92	2007/10/18	30	M	31	—	—	+		ウシ精肉、ブタ精肉、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
93	2007/11/16	24	M	5	—	—	+		不明		無	
94	2007/11/16	54	M	22	—	+	+		ブタホルモン、ブタレバー	十分加熱	無	
95	2007/11/16	45	M	47	—	—	+		ブタ精肉 ブタレバー	十分加熱 半生	無	
96	2007/11/19	58	M	13	—	—	+		レバー、ホルモン	不明	無	
97	2007/11/19	24	M	46	—	—	+		不明		無	
98	2007/11/24	36	M	25	—	—	+		不明		無	
99	2007/11/29	42	M	21	—	+	+		不明		無	
100	2007/11/30	31	M	42	+	+	+		レバー	不明	無	
101	2008/01/08	35	M	36	—	—	+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
102	2008/01/17	48	F	13	+	+	+		ブタホルモン、シカ精肉 ウシ精肉	十分加熱 半生	無	
103	2008/01/29	57	M	22	—	—	+		ブタレバー、ブタホルモン	十分加熱	無	
104	2008/02/04	31	M	47	+	+	+		不明		無	
105	2008/02/06	57	M	20	—	—	+		ブタホルモン	十分加熱	無	
106	2008/02/13	42	M	35	—	—	+		不明レバー	十分加熱	無	
107	2008/02/13	60	M	37	+	+	+		不明		無	
108	2008/03/11	30	M	21	—	—	+		不明		無	
109	2008/03/25	34	F	26	—	—	+		喫食歴なし		無	
110	2008/03/26	32	M	41	+	+	+		ブタ精肉、ウシ精肉	十分加熱	無	
111	2008/03/29	54	M	26	—	—	+		ブタ精肉	十分加熱	無	
112	2008/03/30	19	F	9	—	—	+		不明レバー	十分加熱	無	
113	2008/04/16	48	M	13	—	—	+		不明		無	
114	2008/05/12	33	M	12	—	—	+		ブタ精肉、ブタホルモン	半生	無	
115	2008/05/28	39	F	29	—	—	+		不明		無	
116	2008/05/28	47	M	46	—	—	+		ブタホルモン	十分加熱	無	
117	2008/06/04	43	M	38	+	+	+		ウシレバー ウシホルモン、ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	生 十分加熱	無	
118	2008/06/07	42	M	11	—	—	+		ウシレバー ブタ精肉	生 十分加熱	無	
119	2008/06/23	48	M	17	—	—	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生	無	
120	2008/07/10	39	M	32	—	—	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉 ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	半生 十分加熱	無	

No.	採血日	年齢	性別	ALT (IU/L)	HEV抗体		HEV RNA	問診 該当 ※1	喫食歴調査		遡及対象 供給製剤	受血者情報
					IgM	IgG			肉の種類	食べ方		
121	2008/07/11	39	M	28	—	—	+		不明		無	
122	2008/07/26	34	M	35	—	—	+		ウシ精肉、ブタ精肉	十分加熱	無	
123	2008/07/27	36	M	45	—	—	+		不明		無	
124	2008/07/30	24	M	10	—	—	+		不明		無	
125	2008/08/20	19	M	17	+	—	+		不明		無	
126	2008/09/03	30	M	28	—	—	+		不明		無	
127	2008/09/08	35	M	16	—	—	+		不明		無	
128	2008/09/09	23	F	24	—	—	+		ブタ、ヒツジ精肉	十分加熱	無	
129	2008/09/16	33	F	18	+	+	+		不明		無	
130	2008/09/16	58	M	21	—	—	+		不明		無	
131	2008/09/17	62	M	37	—	—	+		ウシレバー、ブタレバー	十分加熱	無	
132	2008/09/23	42	M	36	—	—	+		ブタ精肉、ブタレバー	十分加熱	無	
133	2008/09/25	35	M	16	—	—	+		不明		無	
134	2008/09/27	30	M	22	—	—	+		不明		無	
135	2008/10/10	50	M	31	—	—	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	不明	無	
136	2008/10/11	39	F	15	—	—	+		ウマ精肉	生	無	
137	2008/10/14	56	M	13	—	—	+		不明レバー	生	無	
138	2008/10/18	38	F	23	—	—	+		不明		無	
139	2008/11/03	37	M	22	—	—	+		ウシホルモン、ブタ精肉	半生	無	
140	2008/11/11	41	F	11	—	—	+		不明		無	
141	2008/12/05	52	M	18	—	—	+		ブタレバー	十分加熱	無	
142	2008/12/20	47	M	22	—	—	+		ウシ、ブタ、ヒツジ精肉	十分加熱	無	

※1：問診喫食歴調査内容
05年 1月1日～05年10月31日：「過去3ヶ月以内にブタ、シカ、イノシシあるいは動物種不明の生肉、生レバーの喫食歴」
05年11月1日～06年03月31日：「過去3ヶ月以内に生肉（半生も含む）、レバー、ホルモン（動物種、焼き方を問わず）の喫食歴」、なお本調査は06年03月31日をもって終了

安全対策業務の流れ

